

富田林市総合計画基本計画検証会議 会議録（発言要旨）

- ◆日 時：平成 23 年 12 月 21 日（15：30～18：45）
- ◆場 所：富田林市消防署 4F 会議室
- ◆参加者：委 員…大川・小堀・前川・両角・吉川（座長）委員
事務局…村本課長、谷口課長補佐、大原主幹、仲谷

発言者	発言概要
事務局	<p>●植村市長公室付部長よりあいさつ</p> <p>この会議は、策定後5年目の折り返しを迎えている本市第4次総合計画（以下「4次総計」という）基本計画について、市民と行政、2つの視点からその見直しを行うことが目的。基本計画を構成する個々の施策については、毎年のフォローアップ会議において、その進め方や公平性、および市民協働の有り様などを確認していただいている。</p> <p>この検証会議では、基本計画そのものの方向性が時代の潮流に合っているかという、大きな枠組みの中でご意見をいただきたい。</p> <p>①東日本大震災を受けての国民の防災意識の高まり ②総合計画策定時の推計を上回るスピードでの人口減少 ③国の政権交代や大阪維新の会など、「改革」の民意を受けて予想される地方行政の在り方の変化。（大阪都構想や広域行政など） ④行政を取り巻く環境変化の中で更に高まる市民参加・市民協働の必要性</p> <p>といった近年の大きな時代の動きなかで、この先も総合計画が適切な指針であり続けられるよう、ご議論願いたい。</p>
事務局	<p>●会議要綱（別紙）について、会議の目的、所掌事項等概要説明</p> <p>●委員紹介</p> <p>●事務局自己紹介</p> <p>●座長・職務代理の選出（要綱第4条関係）</p> <p>要綱の定めに従い互選により座長を選出願う。 ⇒座長を推す声があり、同委員を座長に選出。また、座長の指名により委員を職務代理に選出。</p>
座長	<p>●会議の公開・非公開について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（事務局より会議の公開指針について説明後）会議の公開については、「公開」とする。 ・議事録についても公開とする。ただし、利害関係者からの圧力排除のため、公開の際は発言者名を伏せる。また、市民の読みやすさを考慮し、議事録は事務局が要約筆記で作成し、次の会議でその内容を確認する。 ・傍聴人数については当初5名とし、状況によりその数を調整する。

	<p>●会議の基本的ルールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議は最大3時間。 ・発言や資料を配布する際は、座長に事前に許可を得る。 ・事務局作成資料については、事前配布とする。 ・評決は多数決とする。 <p>「評決」については多数決としているが、総合計画審議会においても行ったことはない。何か決めなくてはならないが、どうしても決まらないという時のルールであると考えている。</p> <p>事務局 今回を含め全4回の会議を想定している。 第1回（今回）では、策定当時からの、前提条件の変化（事務局作成資料）を基に課題を抽出、第2・3回は抽出した課題の検討、第4回は報告書のまとめという具合に進めていただければと考えている。</p>
座長	<p>●検証会議で行うこと</p> <p>それでは、時代潮流の変化について事務局の説明を聴く、その上で、各委員でレベルの違う“見直し”に対するイメージの共有が出来ればと考えている。</p>
委員	<p>事務局の意見を聴く前に確認しておきたい。第3次総合計画（以下「3次総計」という）では、富田林市を住みよくするという目標に対し、当初計画の完了率が非常に低く、ある機関が実施した市民の意識調査（住みよい街のランキング）を見ても、目標とは程遠い結果であった。3次総計を含め、4次総計に謳われる“しくみ”をどう変え、その結果どうなったのかという、これまでの反省（評価）があつての検証だと考えているのかがか。そもそも4次総計でいう“しくみ”の分かりにくさも感じている。</p>
事務局	<p>3次総計については、全分野・施策を確認し、その結果を反映した形で4次総計を作成したと理解している。</p>
座長	<p>何らかの形で反省・評価をしなければならないということは同感であるが、その方法について検証会議の場で行うのか、別の場でそれを行うしくみを作るのかということも含め、どこまでのことをこの会議で行うのかについては今日決めたいと考えている。</p>
委員	<p>4次総計策定時の審議会では、当初議長が交代するなどの混乱を生じ、「市民参加」が機能しなかった。そこで、「市民参加」の意味や行政を形作っていく上での役割について議論し、縦割りの行政に通す横糸（市民参加・市民協働）が必要であるとの結論に達した。</p> <p>フォローアップ会議では、時間的な問題もあり、個々の事業評価まではできないが、基本計画や実施計画において「市民参加」がどう進んでいるのかを確認している段階である。そういったこれまでの取り組みを、検証委員会でどう見ていただいているのかを教えていただき、それを今後のフォローアップ会議に反映できればと</p>

	<p>考えている。</p>
委員	<p>4次総計に、これまで無かった横系が入ったことは良かったと思うが、それが進んでいるのか、それでどう変わったのかを検証する必要がある。</p>
委員	<p>総合計画そのものを直すということがタスクではないと考えている。それが時代に合っているのかということや、積極的に進める事柄について検討し、その結果を報告するということであろう。限られた回数の中では、何（どこ）を検証していくのかを考えるのが先ではないか。</p>
委員	<p>（検証会議のタスクについて）総合計画の内容を基に検討を重ねて作られた実施計画の実施状況を検証することではないかと考えている。</p>
座長	<p>検証会議のタスクについて、これまでの議論を整理したい。見直しという言葉について、見直し＝書き直しではなく、見直し＝検証であるというのは各委員共通のイメージではないか。</p> <p>一方で、時代潮流に応じて云々ということになれば、沿わない部分の読み替えや文言の修正になるように思うが、具体的にどうしていくのか決めたい。</p>
委員	<p>時代潮流が影響していることをふまえ、提言されたしくみ・施策・評価の仕方を方向修正すべきであるとか、たとえば危機管理の面でこうすべきではないかということまでは言えると考えている。</p>
座長	<p>たとえば、時代潮流の中の「急激な人口減少」ひとつとっても、どの施策に影響があるのかをピックアップすることが時間的にできるだろうか？</p>
事務局	<p>個々の施策については、フォローアップ会議で進捗を確認していただいたり、その結果を実施計画（各事業）に反映させるなどしている。この検証会議では、それらのそもそもの方向性の検証や、新たな方向性や転換すべき考え方の提示の必要性を検討していくことがタスクだと考えている。</p>
委員	<p>施策に踏み込むことになれば、100年先を見据えて富田林市がベッドタウンとして生きていくのか、農業で生きていくのか。そうであればどうしていくのかといったビジョンを提示する必要がある。このメンバーではそこまでのことは難しい。やはり、しくみがどう変わり、その結果どうなったのか。また、どう変えていくべきなのかを検討の基本とし、それにプラスして施策に絡むような提案を行うことが現実的。</p>
座長	<p>富田林市はこうあるべきといったことは、市長を越えていくべきではない。この会議は市長に、そういうことについて考えてもらうための資料（最終報告書）を作ることだと考えている。</p> <p>また、時間がない中で、検証会議で4次総計を評価・検証するのか、そうではなく評価・検証をしてもらうしくみを作るのか決めなくてはならない。フォローアップ</p>

	<p>プでは、個々の評価を行うのではなく、しくみを作っている。</p>
委員	<p>過去2年のフォローアップ会議の中でも、計画の書き直しではなく、方向性の確認および検討した課題の報告、それに加えて第5次総合計画策定に向けた検討課題に対する提案についての意見、評価をお願いしたい。</p>
座長	<p>整理すると。まず時代潮流の変化について問題提起、全体像の提言は行う。加えて、3次総計の総括や5次総計に向けて職員が4次総計を評価するしくみづくりに触れてもいいと考えている。</p>
委員	<p>検証会議において、フォローアップ会議に「4次総計を評価する役割」を持たせるよう提言してもいいのではないか。また、これまでのフォローアップ会議では、例えば総合計画と予算の関係や現在の行政評価の改善点について、提言を行っているので検証願いたい。</p>
委員	<p>検証会議とフォローアップとは少し重なる部分はあっても別のもの。個々の評価は担当課が行うべきだと考えており、その評価を評価するフォローアップ会議に対する提言・具申はあってもいいが、やはり基本的に検証会議では個々の評価に踏み込むべきではない。限られた回数なのだから、やはり大きな視点で問題点をとらえる必要がある。</p>
委員	<p>ただ、富田林市では人口が減少しているが、茨木市では人口が増加している。それを時代潮流と言っているのかは考えるべき。また、行政のしくみという点でいえば、市の方向性として統一をとるためには現在はボトムアップが主と聞いているが、本来トップダウンであるべきと考えている。現在の機構のあり方でトップダウンは難しいと思っている。</p>
委員	<p>意見としては理解できるが、限られた時間の中でそこ（機構）まで踏み込むのは難しいし、会議の趣旨に合わない。</p>
事務局	<p>●事務局より資料説明（別紙 資料集を参照）</p> <p>この資料は基本的に4次総計基本構想第1章2節、および第2章2節のグラフデータを更新する形で作成している。ただし、4次総計5ページ「農業の状況」「商業販売額」については、調査方法が変更された等でデータを得られなかった。また、同6ページ「10年後の理想像」「富田林の誇れる点・自慢」についても、アンケート調査を実施していないためデータがない。</p> <p>資料の15、16ページについては、例年行っている市民アンケートに合わせて、市政への市民参加に対する意識調査を今年初めて行った、その集計結果である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口と高齢化率の推移 全国的な傾向と同様に人口減少、高齢化率上昇の傾向にある。 ・世帯数と一世帯当たり平均人員の推移

	<p>世帯数としては増加しているものの、世帯構成人員の平均数が減少している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コーホート要因法による将来人口推移 <p>4次総計策定当時に、より厳しい状況で推計したものをさらに下回っている状況。減少の要因をみると自然減（出生と死亡の差）ではなく、社会減（転出と転入の差）が大きい。表にはないが、平成23年11月末の人口は118,942人。</p>
座長	<p>●人口減少に対する提言について</p> <p>これらの情報を基にどう見直すのか悩ましい。人口が減ってきたから子育て支援を充実させるのか。財政面で市民に我慢してもらって予算を減らすのか。いずれにしろ単なる一般論になりはしないか。</p>
事務局	<p>北摂地域などでたしかに一部増加しているが、日本社会全体で見れば生産年齢人口が先細り人口構造（人口ピラミッド）となっており、その状況は簡単には変わらない。</p> <p>人口減少を抑制する一方で、減っていくという前提で、例えばコンパクトシティに向けての考え方などは必要ないかといった議論をしていただければと思う。</p>
委員	<p>4次総計策定時もその議論は行われており、人口減少を計画の前提として受けられるか否かで意見が分かれ、結果として2つの将来推計（転出入均衡と転出超過）が表示されることとなった。そのため、検証の前提としては、策定当時から人口減少を見通していたとみるべき。</p> <p>多くの首長がいまだにそう思っているように、今後も人口減少を悪として、自治体間での住民の取り合いを続けていくのだろうか。そうでない視点を提示するということでも良いのでは。</p>
委員	<p>事務局として、人口が増加している自治体と減少している富田林市の違いはどこにあると考えているのか。</p>
事務局	<p>詳細な分析比較は行っていない。ただ、転出・転入される方が、どこから本市にきて、または本市からどこへ行っているのかについての傾向は把握している。結果としては、都心の地価が下がっているということもあってか、大阪市や堺市への転出が多く、都心志向の高さが窺える。</p>
委員	<p>富田林市はそんなに利便性が悪いとは思わない。ただ、金剛団地で言えば、築40年で5階建、エレベーターなし、間取りも設備も良いとは言えない。これで入居してもらえらるとは考えられない。</p>
事務局	<p>金剛東よりも金剛団地の減少率が高く、URより戸建ての多い町会の方がより強い人口減少傾向が見られる。</p> <p>市としても交通の利便性が悪いとは思っていない。ただ、そういったことも含めてPRが不足していると思う。職員の認識についても、皆大筋で理解しているものの、危機感のレベルに差がある。</p>

座長	<p>(最終的なまとめ方について) 具体的な施策の中身には触れないとすると、基本構想の前提について検討し、ここの施策の方向性を見直さなければならないというに留めるイメージで良いのか?</p>
事務局	<p>たとえば、これまでの黙っていても人が増えていた時代とは違い、基礎自治体として PR 活動も必要となる、など現時点の時代潮流を受けて、4次総計策定時にはなかった新たなまちづくりの考え方を文言として追加するというイメージは持っていた。</p>
委員	<p>その点を考えるには、今回の事務局提示資料だけでは、富田林市だけが極端に減少しているのかどうか分からない。全国や府下との比較ができる資料が欲しい。 ⇒事務局了承、資料事前送付。</p>
委員	<p>魅力発信も確かに必要かもしれないが、その前に根本的に人口減少の良し悪し、メリット・デメリットについて議論すべきであり、そのための資料(事務局案)が欲しい。</p>
委員	<p>そろそろ次回に向けて、事務局に用意してもらおう資料、自分たちが考えてくるべきことについて整理したい。</p>
座長	<p>5分間の休憩後、第2回会議日程の調整、第2回以降のスケジュールリングを行いたい。</p>
<p>(休 憩) この時点で傍聴者は5名。</p>	
<p>●次回会議のテーマについて</p>	
座長	<p>結局、時代潮流の変化をどうするのか。 見直しにも 問題提起⇒全体論の提言⇒各論(7大綱)への提言⇒基本計画書き換えの提言 といった段階があると思うが、この会議では提起される課題について全体論に留めるのか、それとも7大綱(基本計画第2章)ひとつひとつに当てはめるところまで行くのかを決めたい。</p>
委員	<p>こういう施策をすべきというところまでは、時間的にも、知識的にもどうしても踏み込めないと思う。</p>
委員	<p>そうであれば、時代潮流の中でも重点課題を定め、フォローアップ会議の中でチェックすべきポイントや注意点を示し、さらにその方法(手法)まで提言するというのはどうか。</p>
委員	<p>最後の段階に行くのは、これらの過程を踏まえたフォローアップ会議の報告を待って行うべきであり、それはつまり5次総計への反映となるだろう。</p>

座長	項目的には、人口・税金・市民意識・we（情報技術）・防災（震災）といったところか。
委員	ほとんどが人口減少から派生する話。その良い面・悪い面を考えていくことで、それらの項目についても話が及んでいくのではないか。
座長	先ほど、人口減少についても職員の意識レベルが違うという話があったが、そういう意味では、この会議でその点の課題を整理し、職員に投げかけることには意味があり、検証会議のアウトプットにもなる。 それでは次回は、時代潮流、主に人口減少・少子高齢化（人口構成）を中心とした富田林市の課題を抽出し、掘り下げ、考え方も含め整理していく形の進め方で良いか。
委員	スケジュール的には4回目を取りまとめについての検討に入るくらいのペースが妥当ではないか。
委員	人口減少は富田林市にとって何が問題か、について検討されているのか？
事務局	人口減少問題についてのメリット・デメリットなどについて、自主勉強会において話し合われた資料はある。 ⇒事務局了承、資料事前送付。
委員	人口が減っても生産性があれば問題ないのではないか。今回そこまで踏み込むかどうかは別にして、高齢化社会の中でいかに生産性を上げるかということも課題として考えていくべき。
委員	少子高齢化の傾向の中、生産性を上げていくことは難しいという考え方を前提としてコンパクトシティを目指すことで、結果として若者が回帰することも考えられる。
座長	次回は、人口減少に絞って、3回目はそれ以外の時代潮流について問題項目の頭出しを行いたい。
事務局	フォローアップ会議では、地方分権についての検討も提案されている。
委員	手法として、事務局も含めてKJ法（データをカードに記述し、カードをグループごとにまとめて、図解し、論文等にまとめてゆく方式）を提案したい。
事務局	何を書き出すかが問題となると思うが、まずは富田林市にとって人口減少が良いのか悪いのかといったことで良いのでは？
座長	事務局には次回までに、地域別の人口動態（地域別、年齢別のクロス集計含む）、社会増減の資料を用意してもらいたい。

	⇒事務局了承、資料事前送付。
委員	なぜ人口減少がいけないかということに答えられるものにならなければならない。
委員	大阪市でも流入した人口を中に留めようと手を打っている。人を引きとめることで法人税、個人住民税の両方を確保しようとしている。いかに税を確保していくのは、真剣に考えていくべき。
委員	財政調整基金の残高の推計で見れば、計画通りという側面もある。冷静に財政状況を整理し、総合計画の策定について財政面からも見ていくよう提言できれば、市民にとってもより分かり易い総合計画になると考えている。
委員	財政調整基金を減らさないことに固執するあまり、本当に必要なところにお金が使われていないのではないかとすることを危惧してしまう
事務局	集中的に建設した公共施設については、老朽化の時期も当然重なる。震災のこともあるので、まさに喫緊の課題として抱えている。今回の震災もあって、改めて4次総計で謳う横糸、市民協働や市民参加の重要性を感じている。
座長	検証についての共通認識はできたと思うので、次回は人口について色々と掘り下げて、検証会議としての見解を整理する。それに向けて、事務局には本日の会議でこれまで提案された資料の送付とKJ法用のポストイットを準備してほしい。その資料を基に、委員各自、意見を組み立てておいて次回に臨んでいただきたい。
	(会議終了)